

医療とくらしと地域活動をサポート

ダンス・健康ホットライン

第21回 ダンスを通じて多くの人が輪になれるイベント「お気軽ダンスフェスティバル」主催者の佐藤恵さん



▲「お気軽ダンスフェスティバル」を通して人の輪を広げたい、と語る佐藤恵さん

10月5日、さいたま新都心けやきひろばプラザ2に於いて、第3回「お気軽ダンスフェスティバル」が盛大に開催されました。埼玉県を中心部、人々が行き交う広いオープンスペースを会場に、入場無料、その名の通り誰もが気軽に参加できるカジュアルなダンスイベントです。このイベントを主催しているのが、フリーアナウンサーかつダンスプランナーとして活躍されている佐藤恵さんです。

しかも今回はダンスで広がるピンクリボンの輪と銘打ち、キャンペーンを展開していたピンクリボン（乳がんの撲滅と検診の早期受診を啓蒙・推進）運動とタイアップ。乳がん専門医によるトークショーや、無料相談コーナー、乳がんを克服した今村成親・華代組のデモンストラティオン、多くのダンス愛好家に、日本人女性の20人に1人が罹るとも言われる乳がん検診の必要性和、自身、パートナー、家族の健康について考えることの大切さをアピールしました。

そんな佐藤恵さんに、ダンスを始めた経緯から、「お気軽ダンスフェスティバル」を実現しようと考えた理由、そして今後の目標まで、じっくりとお話を伺いました。



▶健康でいられる幸せを踊りに込めた今村成親・華代先生



▲乳がん克服の実体験を語る華代先生。成親先生も家族としていかに接してきたかを話し、大きな拍手が沸き起こった

豊富な海外経験でダンスの真髄を体得。誰でも気軽に

参加できる場を作りたい！

ほんわりとした穏やかな優しさに、バイタリティあふれる行動力……佐藤恵さんと会い、言葉交わす機会を得たら、きつと誰もが同じような印象を抱くことでしょう。そんな彼女がダンスを始めたのは、ご主人の海外赴任に伴い、85年から5年間滞在したイギリス時代のこと。ドーリン・フリーマン女史に弟子入りして勉強するうちに、どんどん探求心が湧き、ついにはISTD（英インペリアルダンス教師協会）の正会員となるまでになりました。「人間の自然な動きが、そのままダンスの理論に当てはまる……ドーリンの教えでもあるその点に、面白さを感じたのだと思います。ただ90年に日本へ戻って強く感じたのは、留学と称して訪れる日本の先生方が、イギリスのスピリットを持ち帰っていないこと。あちらでは、どんなに偉い先生でも心を開いて教えてくださったし、特にお金がかかるものでもなく、上手でなければ人前で踊れない——なんてこともありませんでした。それに比べると日本

のダンスの状況は、ちよつとおかしい。本来のダンスは、こんなものじゃない！と、強いショックを受けたのです」

その後もカナダ、マレーシア、フランスと、行った先々で日常生活に溶け込んだダンスを目の当たりにしてきた佐藤さんは、ようやく日本で落ち着くことができるようになった02年以降、海外経験から体得したダンスの当たり前の姿を日本にも広めたいと考えようになります。この想いが「お気軽ダンスフェスティバル」の企画・主催へと結実したのでした。

「歌ったり泳いだりすると同じように、踊ることって特別なことじゃない……それを発信したかったのです。誰でも肩肘を張ることなく、気軽にダンスを楽しめる場が日本にもあつていい。そして、ダンスを通して人の輪が広がっていく、もつと社会がハートフルに温かく、明るくなっていくのではないのでしょうか。これが私の根本的な考え方です」

回を重ねる毎に進化してゆくテーマ。盛況の「お気軽ダンスフェスティバル」！

こうして07年11月に開催された第1回フェスのテーマは、「ダンスを通じて

世代間の交流。子供からお年寄りまでが、ダンスを媒介にして、気軽に集って楽しめる——そんなイベントを実現し、その姿を多くの人の目に触れさせたかったそうです。

「ダンスに対する偏見って、まだまだあるじゃないですか。でも、さいたま市のサークルでアンケートを取ってみたいら、皆さん健康のためにダンスをやっているんですね。発想は健全なのに、外部の人は、そうは見えていない……このギャップを埋めたいと思いました。それには、すべての世代が健全にダンスを楽しみ、交流する笑顔を、誰でも立ち寄れる所に集め、直に見て貰うのが一番。だからこそ敢えてオーブンスペースの「さいたま新都心けやきひろばプラザ2」を会場にしたのです」

続く2回目は「GWけやきひろば祭り」共催という形をとり、08年5月、子供たちにスポットを当てて開催。高齢者がやっている娯楽的なものと思われがちなダンスを、今は違う——とアピールしたのでした。

「楽しみとしてやっている子、技術の向上を追求している子……種々の団体や個人が力を入れているおかげで、今は子供たちにダンスが普及しつつありますが、その姿を見せることで、一

般の方にも「ダンスっていいものだ」とか「自分の子供にもやらせてみよう」と考えて頂きたかったのです。また子供たちに、競技会以外に発表の場を与えたいという想いもありました」

そして10月5日に開催された第3回は、ちょうど同時期に「乳がん検診啓発キャンペーン」を展開中のピンクリボン運動とタイアップ。女性が多いダンス愛好家に検診の大切さを訴えるとともに、男性愛好家にも自分自身やパートナー、家族の健康を考えてみませんか？ と提案したのでした。

「私自身、30代の半ばにがんを早期発見して命拾いした経験を持っていますが、ダンス愛好家は健康に自信のある方が多いせいか、検診受診率が高くないのです。そこで、乳がんを発症しながら克服された今村華代先生、成親先生に肉声でのメッセージを頂いたり、自己検診の仕方を指導するコーナーを設けたりして、早期発見の大切さを訴えました。始まる前は、興味を持たれないのでは？ と心配もしましたが、愛好家の皆さんは真剣でしたし、専門医の側からも「ふだん検診を受けない層にアピールできて有意義だった」と喜ばれましたので、成功だったのではないのでしょうか」



▲乳がん検診の早期受診を呼びかける専門医、甲斐敏弘先生



▲この日は、専門医による無料相談コーナーも設けられた

フリー・アナウンサーの実績も活用。ダンスする場を温か味のある空間へ！

こうして3回の「お気軽フェス」を成功裡に終えた佐藤さんに、いま見えてきたのは、閉鎖的世界に閉じこも

って満足するのではなく、もっとダンスを一般社会へ開放して行くのが大切だということ。そのために、今後も、埼玉県への言える中心地でイベントを開催し続け、社交ダンスの社会的な地位向上に貢献したいそうです。

「これまで模索を続けてきましたが、確かな手応えを感じましたので、5月はこどもの日に困んだ子供向けの企画、10月はピンクリボンを支援する企画で「お気軽フェス」を続けたいですね。現在の子供たち自身や周囲が抱える問題、あるいは若年層（30代）で増加しているという乳がんに対する検診啓発など、ダンスを通して発信することができれば、それは十分に価値のあることだと思います」

そして、もう一つの目標は、FM浦和でパーソナリティを務めるフリー・アナウンサーとしての実績を活かし、パ

ーティや競技会といったダンスシーンを、ホスピタリティのある温かい空間に変えていくこと。声をかけて貰えば、ぜひ司会者として協力させてほしいとのことでした。

「パーティでも競技会でも同じなのですが、今のアナウンスを聞いていると、あまりに四角いというか、ライブ感が無いというか、出演する側と観る側と真つ二つに割れてしまっている例がほとんどです。お金と時間をかけて打ち込んでいるのに、これではもったいないですよね。でも、それは司会者の力量次第ですぐにも改善できますので、一度、私に任せてみてください（笑）」

相手の顔も見えずに莫大な情報量やりとりされている現代社会にあって、男性と女性が向かい合い、手を握り合って共同作業をするのは、今やダンスしかないのでは……、だからこそ身体的にはもちろん、メンタルな健康の増進にも繋がるのでしよう、と話してくれた佐藤さん。きっとこれから、多くの人々をダンスを通じた温かい輪で結んでくれることでしょう。



▲世代間の交流をテーマに掲げた「第1回お気軽ダンスフェスティバル」



▲多くの子供たちがダンスを披露した「第2回フェスティバル」